

基本計画案の修正について

(第 4 回広川町総合計画審議会での意見)

●基本施策 1 2-2. 交流活動の推進について

・「国際感覚の育成を図ります」とされているが、感覚の育成という表現が適当であるかどうか、もう一回検討を。

・「国際交流活動と多文化共生の推進」とありますが、「多文化共生のまちづくり」としたほうが、受け手としては分かりやすいのではないかと思います。

多文化共生にした場合は、余りにも漠然としすぎているので、まちづくりを入れられたほうがいいかなと思います。

○【基本施策 1 2-2. 交流活動の推進】の主要施策 (3) を以下のとおり修正します。

(3) 国際交流活動と多文化共生のまちづくりの推進

国際交流、国際理解教育に取り組む広川町国際交流協会 (H i F A) との協働によりアジア太平洋子ども会議 (A P C C) 事業などの交流活動に取り組み、国際感覚の醸成を図ります。

また、在留外国人が暮らしやすいまちづくりを進めるため、言語の問題に対する支援や交流の場づくりなど、多文化共生のまちづくりを推進します。

●基本施策 4 1-1. 農林業の振興

商業のほうには、農業や観光との連携という言葉が明記されていますけど、農業のほうで、6 次化の推進とか、そういう言葉を何かひとつ入れていただけないだろうか。

商品開発をして、それを商工と絡んでから販売していくとか、観光との連携など、そういった連携を進めていきたいと思いますので。

○農業などの第一次産業が、食品加工や流通販売まで業務展開する“6 次産業化”及び農業者と商工業者がそれぞれ有する経営資源を互いに持ち寄り新商品の開発に取り組む“農商工連携”について、地域協議会と連携し、取組を進めていくこととしております。

【基本施策 4 1-1. 農林業の振興】に主要施策 (6) として以下の施策を追加します。

(6) 6 次産業化・農商工連携の推進

地域ぐるみで行う 6 次産業化や農商工連携の地域振興の取組を推進します。消費者ニーズを踏まえた商品開発を促進するとともに、付加価値の向上や販路拡大に向けた支援を行います。

●基本施策4 1-1. 農林業の振興

「みんなで目指す目標値」で、認定農業者数率として、専業農家に占める認定農業者の割合という形で示されているが、ここは、その率ではなくて、認定農業者の数を数値目標として出したほうがいいのではないのでしょうか。

○農業従事者については、後継者や新規就農者など、新たな担い手の育成に努めていますが、農業者の全体数は年々減少傾向にあります。今後も農業者全体数が減っていくことが予想される中、担い手となる認定農業者を一定割合確保していくことを目標としたいと考えています。

●基本施策5 1-2. 交通安全・防犯体制の充実

「みんなで目指す目標値」の安全ハウスの設置数についてですが、この安全ハウスを何百件上げたからと良いというのではなくて、この安全ハウスが機能しているかどうか、一番重要であると思っております。

数年前より、青少年育成会議において、この話はよく出ていて、入院中で不在の安全ハウスや、子供側から暗いから行きたくないという安全ハウスがあるようです。果たして安全ハウスとして機能しているのか、ちゃんと点検してほしいということが要望として毎年出ています。

それで、この目標値は目標値でいいのですが、余り極端に上げて、旗が何本、上広が何本になった、下広が何本になったということよりも、機能しているその安全ハウスを、私は問題視してほしいと思っております。

○安全ハウスについては、PTAや地域の取組により広範囲において設置されており、避難場所の確保による安全性の向上は図られてきました。そのため、目標値についても、今の状況を維持していくという観点を主に設定しました。上記の意見をいただきまして、今後は安全ハウスの件数を増やす取組でなく、避難場所として機能している安全ハウスの点検、確保に転換していきたいと考えています。

なお、この施策の成果指標につきましては、安全ハウスの設置ではなく、同じく子どもを安全を確保する取組である「防犯カメラの設置箇所数」について増加させていくことを目標に設定したいと考えています。

成果指標の名称	平成21年度 (10年前)	令和元年度 (現状値)	令和5年度 (目標値)	備考
防犯カメラ設置箇所数(箇所)	—	9	27	危険箇所への防犯カメラの設置数

●「みんなで目指す目標値」の住民アンケートで測る指標について

・よくこの満足度というのが出てきますが、その物差しが非常に難しいなという印象です。そしてまた、世代に応じて違う、地域によって違う、非常にバランスが取りにくい評価になるのではないかと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

この満足度というのが、目標値として適切であるかどうかよく分かりませんが、何か他に良い物差しはないものでしょうか。

・みんなで目指す目標値の「保護や省資源・省エネルギーなど、環境に配慮した生活をしている割合」については、明確にパーセントを出しているわけですが、何か根拠、裏づけか何かあるのでしょうか。

○みんなで目指す目標値の中に、住民アンケートにより達成度を測る指標があります。

住民アンケート(まちづくりアンケート調査)については、総合計画の策定のために、18歳以上の住民2,500人を無作為抽出したアンケートを実施し、各地域、各年代から広く回答をいただいております。

10年前→5年前→令和元年度と、基本的に同じ条件・内容でアンケートをとっていますので、数字の変遷が目に見え、事業の推進による効果が反映されやすい指標であると考えています。

しかし、ご意見のとおり将来の目標値をどのように設定するかというところで、設定方法や根拠がないなど不明確な部分がありました。

基本施策1～3の説明時には、なるべく数字でということ目標値を出していましたが、中には現状の満足度が10%代など低い分野もあり、その目標値も20～30%という低い数字目標を掲げていました。

このことについて修正を行い、住民アンケートに関する目標値については、3年間の中で可能な限り上げていくということで、矢印で表現することとしました。

また、アンケート以外の成果指標についても、全体的に精査し、見直しました。【資料1(別紙)】